

公開講座活動報告

法人・団体名 高知母性衛生学会

テーマ 『もっと知りたい「院内助産システム」のこと』

講師 1：高嶋愛希氏（助産院「ゆいま〜る」（元高知医療センター助産師））

講師 2：中井章人先生（社会福祉法人恩賜財団母子愛育会周産母子保健センター顧問、
愛育産後ケア子育てステーション所長、日本医科大学名誉教授、公益社団法人
日本産婦人科医会 副会長）

開催年月日 2024年11月30日13時～16時

会場 ちより街テラス ちよテラホール（高知県高知市知寄町2丁目1-37）

講演概要

これからの高知県の周産期医療体制を維持するためには、産婦人科医師数が増加に転じるよう継続的な取り組みと医師から助産師さんへのタスクシェア・協働を見直すことが重要と考えています。そこで今回、『もっと知りたい「院内助産システム」のこと』をテーマに講演会を企画しました。演者には、日本大学多摩永山病院前病院長で現在は日本産婦人科医会副会長である中井章人先生、そして、院内助産システムを運用するためには、助産師さんのマインドチェンジも必要と考え、元高知医療センター助産師で現在は派遣助産師として全国を飛び回り、院内助産にも関わっている高嶋愛希さんをお願い致しました。さらに院内助産を運用するためには、周産期医療関係者だけでなく、妊婦さんたちの理解も必要だと考え、市民公開講座とさせていただきました。

会場には医師、助産師だけでなく、一般の方も多数参加されており、とても活気のある市民公開講座となりました。

まず、高嶋さんに「院内助産でかなえるより良いお産と産後ケア」と題してご講演いただきました。女性の権利（リプロダクティブヘルス・ライツ）「すべての女性が自分の身体、人生について自由に決定できる基本的な権利がある」として、助産師が主体となってお産のケアをする院内助産は①自然なお産を目指したいけれど、安全性も確保したい②自分の希望やペースを尊重してほしい③助産師に寄り添ってもらいながら安心感の中でお産に向かいたい、といった妊婦さんの希望がかなえられるメリットがあると説明しました。また、助産師にとっての院内助産は、やりがいや専門性を発揮し、自己実現できるものだとしました。そして院内助産を実施するためには、医師、助産師が垣

根なく対話ができる関係をつくり、勉強会などを通して、不安解消をしながらモチベーションを維持していくことが大切だと語りました。

続いて中井先生からは「助産師外来、院内助産システムのはじめ方」と題して、大学病院でのご経験をお話しいただきました。強調されたのは、院内助産システムは、単なる院内助産とは異なり、助産師外来と院内助産を独立したものとせず、医師・助産師の特性を生かし、協働し対応するシステムとすること、そして医師不足対応を目的として運用するものではないということです。このシステムの立ち上げに際して、産科医師の理解が容易には得られず、約1年近くの議論を繰り返しながら、対象患者、助産師外来保健指導内容、電話対応チェックリスト、入院決定のフローチャート、入室管理基準、医師への連絡基準などあらゆる取り決めを医師と助産師が議論を繰り返し、共通の認識を作り上げていったそうです。そして院内助産システムが軌道に乗ってからの効果は、医師では①夜間正常分娩での呼び出し回数が減少した②夜間救急搬送受入れが増加した③英文論文数が増加した、助産師では①仕事のやりがいが増した②スキルが高まり教育効果が出た③職員数が増加した、ということが確認され、更に妊産婦さんは満足度が高まり、分娩リピーターが増加したとのこと。中井先生は院内助産システムとセミオープンシステムを導入した15年間ほどの期間で大学病院がある南多摩医療圏の周産期死亡率が東京都全体の平均より下回ったことが、何よりうれしかったと述べられ講演を締めくくられました。

